



# こんな世になぜ黙っている宗教家

真宗大谷派 林 正道

これは、昨年1月26日付「朝日川柳」に載っていた神奈川県の赤坂栄さんの作品です。今まさに、このことが、あらゆる宗教、宗教者にとわれているのではないのでしょうか。

「戦後に生まれて、戦死するか」。正確ではないかもしれませんが、こんな句も投稿されてきました。吉永小百合さんは、「戦後何年」という言い方が、ずっと続いて欲しい」と訴えます。昨年の戦後70年は、戦争法、TPP、原発再稼働、辺野古米軍新基地建设など、まさに激動の1年で

「戦後に生まれて、戦死するか」。正確ではないかもしれませんが、こんな句も投稿されてきました。吉永小百合さんは、「戦後何年」という言い方が、ずっと続いて欲しい」と訴えます。昨年の戦後70年は、戦争法、TPP、原発再稼働、辺野古米軍新基地建设など、まさに激動の1年で

「最もいのちを大事にせな

この一年が「前夜」になる  
そんな思いで時を過ごすなら  
日常の会話に“今”を憂える  
声が聞こえてくる時  
希望が芽生える

**日本国憲法 第9条**  
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

がエスカレートし、日本政府は、これに積極的に荷担しながら、かつての紀元節を建国記念日として復活し、靖国神社国家護持法案を強行して「国家神道」の再興を狙っていたのでした。私自身はいわゆる「学生紛争」の渦中であって、

き合っていると思います『殺すなかれ、兵戈無用南無阿弥陀仏』の幟旗を持って、3・1ピッキニデー！久保山愛吉墓参行進や、8月5日の広島原爆慰霊碑前での『いのちをえらびとる断食の祈り』、原発再稼働や国家機密法、戦争法に反対する集会やデモにも積極的に参加しています。

大学民主化や反戦平和の運動に積極的に関わって来ました。卒業後は、30数年、失業対策事業で働く人たちが中心の『全日自労』（全日本自由労働組合、今は全日本建設交連一般労働組合）で「失業と貧困と戦争」に反対し、『全労連』（全国労働組合総連合）で「人間らしく生き働ける社会」の実現をめざしてきま

真宗大谷派は、2015年9月19日、「安全保障関連法成立にあつての宗派声明―積極的な『対話』による『真の平和』の実現を願う」を出しました。そこには「私たち真宗大谷派は、先の大戦において国家統制に追随し、仏法を人間の都合で利用して戦争に積極的に加担しました。その過ちをくりかえしてはならないとの決意から、安全保障関連法案に対して反対の意を表明して参りました。…私

14年前、寺に帰って住職になりましたが、労働運動の中でめざしたものと、仏法の願いは重なり合い、響

表明して参りました。…私

私たちは仏の教えに基づく教団として、このたびの安全保障関連法の撤廃を求めるとともに、今後も引き続き、戦争に繋がるあらゆる行為を未然に防ぐ努力をおしひません。…」と訴えています。この呼びかけに、どう具体的に応えるのか？が、私たち僧侶や門信徒に問われています。

「戦争法廃案」をめざして全国的な運動が大きく拡がり、国会議員選挙での統一候補の擁立や「国民連合政府」の取り組みも始まっています。「戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は、19日を中心にした全国的な統一行動や「戦争法の廃止を求める統一署名」を、5月3日の「憲法記念日」までに2000万人を集めることをめざして、取り組みを強めています。私の地元でも、各団体・個人と共同して「戦争法の廃止を求める宇佐市民の会」(代表・林

正道)を結成して、国道10号線での宣伝や署名行動、2月14日には岡村正淳弁護士を講師に「戦争法の学習会」などにも取り組んでいます。私も、門信徒などにも積極的に署名をお願いしています。

その一方で、安倍自公政権は、夏の参議院選挙(衆議院選挙も…)で3分の2の議席を確保し、憲法「改正」に打って出ようとしています。その先頭に立っているのが、改憲団体『美しい日本の憲法をつくる国民の会』で、▽天皇の元首化、▽9条2項に自衛隊の規定を設ける、▽「家族」条項の新設、▽緊急事態対処規定の新設、▽96条の改憲要件の緩和、▽前文に伝統・文化を盛り込む、ことなどを狙っています。1000万人を目標に全国的に賛同署名運動を展開しています。中心になっている神社本庁は、全国8万の神社に通達を出して署名運

動を進め、初詣の参拝客にも署名集めをしています。すでに540万の署名が集まったとも言われており、その署名用紙には電話番号を記入するようになっていきます。改憲の国民投票の際、賛成投票を呼び掛けるためのものです。かつてのよう「国家神道」の復活を、絶対に許すことはできません。「こんな世になぜ黙っている宗教家」という厳しい国民、門信徒の声に、今こそ宗教・教派をこえて、具体的に応えていこうではありませんか。

### 手渡そうこの本を 『あんぼと今夜のばんごはん』

同封の本をご覧になって、賛同できれば身近な人に、そして人から人に…

必要部数を代表の日野詢城にお知らせ下さい。経費は、会の負担と致します。

### 「ガチ取るっえ！憲法9条にノーベル平和賞」報告 大分メノナイト教会 佐々木淳二

「憲法9条にノーベル平和賞を」おおいた実行委員会」主催による講演会「ガチ取るっえ！憲法9条にノーベル平和賞」が、2015年12月6日、ホルトホールの大ホールにて行われました。

この講演会が生まれた切っ掛けは、昨年1月、「宗教者9条の会・大分」での寄合の中で次のような話が出たことから始まりました。

「神奈川県で始まった『憲法9条にノーベル平和賞を』の運動が日本各地に広がっている」と聞く、私どもの身近にいても、このための署名をたくさん集めた者たちがいる。憲法が危機的状况にある

この時期に、実に意味ある運動だと感じる。もし発案者である鷹巣直美さんや、代表の石垣義昭さんが、大分に来てくれたならば、署名を集めた者たちは話を聞いてみたいだろう」と。



ホルトホール大分 大ホール

とても魅力的な企画提案だと思いました。しかし何から初めて、どうやればよいのか、まったく分かりませんでした。私は、クリスチャン新聞に鷹巣直美さんのインタビューが載っていたことを思い出

し、新聞社に電話を入れま  
した。その数日後、鷹巣さ  
んご本人からお電話をいた  
だいたのです。感動しまし  
た。そこで、大分でもこの  
運動と連帯したいとの旨を  
伝えると、彼女は喜んで協  
力するとの約束をしてくれ  
たのです。



津久見樫の実少年少女合唱団

II 大分県下にある「九条の  
会」を中心とする25の団体・  
個人が中心となつて『憲  
法9条にノーベル平和賞  
を』おおいた実行委員会」  
(委員長 岡村正淳弁護士)  
を立ち上げました。

「おおいた実行委員会」  
では署名活動と講演会を行  
うことを決めました。  
ほどこなくして講演会には  
石垣さんが大分へ来てくだ  
さることが決まり、「津久  
見樫の実少年少女合唱団」  
の出演も決まり、憲法を守  
るため全国を飛び回ってい  
る伊藤真弁護士が来てくだ  
さることが決まりました。  
美しいチラシとチケットも  
できあがり、上々の滑り出  
しです。まるで風ひとつな  
い水銀の泉を、金のたらい  
に乗って進んでいるかのよ  
うでした。

署名は41258筆が寄  
せられました。  
けれども講演会開催の  
一ヶ月前、それは最後の  
実行委員会だったので  
が、チケットの販売状況を  
聞いてみたところ、売れた  
チケットが300枚だと分  
かったのです。ホルトホー  
ル、大ホールの座席数は  
1200です。それな  
りにチケットの売れた数が  
300枚。本当に驚きまし  
た。緊張感と不安感とで手  
のひらは氷のように冷たく  
なりました。

なぜチケットは売れない  
のか？  
理由は幾つか考えられま  
す。例えば、トリニータの  
最終戦、その他の大きな行  
事と日が重なった。津久見  
では選挙があった。しかし  
手をこまねいてはいられま  
せん。メンバーは手分けし  
て、講演会の案内を大分県  
下にある平和を愛するすべ  
の団体と個人に、再度、  
もしくは再々度行うことに  
します。

そして迎えた当日、大  
ホール入り口には、会場案  
内係と受付担当者が立ち、  
受付テーブルの上には資料  
が並べられ、来会者を待ち  
ます。開場時刻となりまし  
た。私は目をつぶって神様  
に祈りました。そして目を  
開けると、受付には人が溢  
れていたのです。

入場者数、約700名。  
チケット販売数882枚。  
石垣さん、伊藤先生のお  
話に憲法9条の素晴らしさ  
を確信し、樫の実少年少女  
合唱団の美しい歌声に心洗  
われ、講演会は大成功でし  
た。私は心からの感謝と賛  
美を、神様に献げました。



伊藤真 弁護士

まとめ  
ところで、この原稿を書  
いている2月4日、神奈川  
の「憲法9条にノーベル平

和賞を」実行委員会から  
メールが届きました。  
「ノーベル平和賞」受賞  
のためには、まずノーベル  
委員会に、それを推薦しな  
くてはなりません。実行  
委員会、そのものは推薦  
人になることはできません。  
や大学教授に限られている  
からです。しかし今年はず  
年の倍の181名(国会議  
員73名、国内外の大学教授  
108名)が推薦人になっ  
てくれたとメールの報告に  
書いてありました。  
今年こそはノーベル平和  
賞の受賞が期待されます。  
大分でも、この取り組み  
を続けて行きたいと思つて  
います。昨年同様、「宗教  
者9条の会・大分」のお力  
添えを、心からお願ひ申し  
上げます。  
「戦争の放棄を定める憲  
法9条を保持している日本  
国民にノーベル平和賞」の  
願ひが届き、ノーベル平和  
賞が授与されたなら、どん  
なに嬉しいことでしょう。

# 11回目を迎える米海兵隊実弾射撃訓練

11回目となる日出生台での、在沖繩米軍第12海兵隊実弾射撃訓練は、地元住民や平和運動団体の反対を押し切って今年も2月7日に先発隊20名、8〜9日に本隊180名、155ミリりゅう弾砲6門や約60台の車両との武器弾薬を10日に搬入。2012年の9回目の訓練まではそれなりの情報開示があり、地元住民との話し合いも定秘密保護法」による訓



米軍基地の整理・縮小などを求め、「ガンパロー」を三唱する参加者=30日午後、玖珠町の玖珠河川敷

## 「基地の整理・縮小を」 玖珠町で5千人集会

**2016**  
米軍訓練  
在沖繩米軍に20日出生台演習場での実弾射撃訓練を前に、連合九州ブロック連合会連合大会が30日、玖珠町の玖珠河川敷で「米軍基地の整理・縮小を」を掲げる1・30日出生台集会を開いた。北豊から沖繩まで加盟労働組合員が500人、(主催者発表)が参加。連合九州ブロック連合会の高島喜良氏代表幹事・連合本部の連合副代表幹事長が、地元元への負担はますます大きくなっている。開演、安全確保は基地のある地域だけではなく、日本全体の問題」とあいづちした。

大分合同新聞  
1月31日

### 編集後記

練に関する情報の隠蔽、昨年強行採決された「安全保障関連法」が機能している。取材は各社が行っているが、テレビや新聞報道も極端に減り、「大分合同新聞」がひとり頑張っているという感じである。

1月30日に玖珠河川敷で5000人規模の集会を開いた、連合九州ブロック連絡会、連合大分は「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直し」を求めた。また、日出生台での実弾砲撃訓練演習に反対する県各界連絡会は2月7日に九重町の運動公園で、沖繩選出の赤嶺政賢(衆院議員)などの参加を得て、日出生台演習場での米軍訓練廃止と、沖繩の米軍新基地建設に反対する集会決議を採択した。それとは別に住民グループ「ローカルネット大分・日出生台」、「草の根会」などの市民グループの反対集会がゲート前で開かれている。殆どの訓練内容が公開されていない今回の演習、ローカルネットが中心になって実施されている監視小屋からの監視活動で、その概要をつかむほかない今です。(日野詢城)

10年以上お世話になっている人が「第3次世界大戦になりそうな気配です」と語りかけてきた。全く思いがけない発言で、チョット戸惑っていると「第二次大戦の時も、その前の戦争の時も、こんな感じでなかったかと思う」と。明治以降の戦争「前夜」と今は少し異なるはずだ。「民意」というものが反映される仕組みになっている。ただ、多くの人が感じているのは「政治のことは良く解らない」という無気力感だ。自分が感じていることと、報道されていることとの距離に違和感を感じ、解らないと言う意識に繋がりが、政治離れを起こしているのだと思う。メディアに対する圧力は凄まじい

のだと思う…安倍政権になり、NHKの会長人事があり、機密法が制定された。帝国憲法に示された「公共の秩序を乱さない限りの言論・信教の自由」という感覚そのもので、国会の答弁がやりとりされた。政府の中ではとくに「前夜」に突入し、それがモタモタしているので、苛立っているのだと思うと恐ろしい。でも、立憲主義も、民主主義もまだ生きている。今こそ日常会話の中でできる真さや、怪しげな空気を語り合うこと…それが国民主権の第一歩だ。(詢)

### 世話人(◎代表者)

- 無着 成恭 曹洞宗僧侶
- 酒迎 天信 日本山妙法寺
- ◎日野 詢城 大谷派見成寺
- 林 正道 大谷派安養寺
- 西郡 均 本願寺派誓岸寺
- 古谷 聡 大谷派蓮照寺
- 佐々木淳二 大分メソナイトキリスト教会
- 掛橋 泰定 日蓮宗妙栄寺
- 大在 紀 本願寺派長光寺
- 野口 春夫 日本基督教団津久見教会
- 永井 一匡 アライアンス大分キリスト教会